

# 平成 19 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）平成 18 年 7 月 24 日



上場会社名 小林製薬株式会社

(コード番号：4967 東・大1部)

(URL <http://www.kobayashi.co.jp/>)

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 豊

責任者 取締役 グループ統括本社本部長 山根 聡 TEL : (06) 6222-0084

## 1 第 1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : 中間連結財務諸表作成基準

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識方法 : 有

との相違の有無

(内容)

当第 1 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、前連結会計年度末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規) 2 社 (除外) 1 社 持分法 (新規) 0 社 (除外) 0 社

公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

## 2 平成 19 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

### (1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 3 月期第 1 四半期	62,668	2.0	3,609	9.7	3,106	13.5	2,429	44.6
18 年 3 月期第 1 四半期	61,414	14.9	3,998	39.3	3,591	44.3	1,680	0.0
(参考) 18 年 3 月期	246,852		16,879		15,151		7,474	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19 年 3 月期第 1 四半期	58	82	58	73
18 年 3 月期第 1 四半期	40	37		
(参考) 18 年 3 月期	179	17	179	01

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

### [ 経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第 1 四半期のわが国経済は、企業収益の改善や底堅い個人消費などに牽引され、緩やかな回復基調で推移しておりますが、米国景気の減速や原油価格高騰の長期化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対して新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 1 四半期の売上高は 62,668 百万円 (前年同期比 2.0% 増)、営業利益 3,609 百万円 (同 9.7% 減)、経常利益 3,106 百万円 (同 13.5% 減) となりました。また、当第 1 四半期純利益は 2,429 百万円 (同 44.6% 増) となりました。前年同期比が大きく増加したのは、減損損失を前年同期に 1,437 百万円計上したことによるものです。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

### 家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、今春におなかの内側の脂肪の分解・燃焼を促す内服薬「ナイシトール 85」、イヤな生活臭をイオン消臭する「クリエアー」など 18 品目の新製品 (栄養補助食品は除く) を発売し、売上拡大に貢献しました。また、口腔衛生品「生葉」、昨年 6 月から販売した女性保健薬「命の母 A」も引き続き順調に推移した結果、売上高は 23,508 百万円と前年同期に比べ 1,301 百万円 (5.9%) の増収となりました。製造原価などのコスト削減は実施しましたが、ブランド育成のため積極的な広告宣伝を実施した結果、営業利益は 3,358 百万円と前年同期に比べ 693 百万円 (17.1%) の減益となりました。

### 家庭用品卸事業

当事業におきましては、天候不順による影響から主要顧客であるドラッグストアにおいて夏物商材などが苦戦するなど厳しい事業環境でしたが、当第一四半期から㈱KS東北が新規に連結対象となったことから、売上高は41,246百万円と前年同期に比べ239百万円(0.6%)の増収となりました。しかし、既存エリアにおける健康食品、夏物商材などの売上が減少した結果、営業損失は175百万円と前年同期に比べ135百万円の減益となりました。

### 医療関連事業

当事業におきましては、国内では自社製品の発売に加え、市場の拡大が見込まれる整形外科領域へ注力しており、売上は順調に推移しております。一方、米国では顧客管理の新システムの導入や間接部門の経費削減により利益率が向上しました。この結果、売上高は4,256百万円と前年同期に比べ448百万円(11.8%)の増収となり、営業利益は318百万円と前年同期に比べ360百万円の増益となりました。

### (2) 財政状態(連結)の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	160,206	70,519	44.0	1,706 88
18年3月期第1四半期	149,996	60,985	40.7	1,465 28
(参考)18年3月期	151,945	66,811	44.0	1,617 10

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	1,155	2,981	2,499	23,761
18年3月期第1四半期	283	518	888	20,170
(参考)18年3月期	13,159	6,414	1,419	24,436

### [ 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等 ]

当第1四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して8,260百万円増加しましたが、純資産も3,707百万円増加したことから、自己資本比率は44.0%と変動ありませんでした。なお、従前基準による自己資本比率は42.2%であります。

また増減の主なものに、子会社の新規連結化による影響などから流動資産では受取手形及び売掛金が5,849百万円の増加、棚卸資産では2,116百万円増加しております。同様に、流動負債では支払手形及び買掛金が7,517百万円の増加、短期借入金では1,356百万円増加しております。

### ( 連結キャッシュ・フロー )

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は1,155百万円となりました。

これは、税金等調整前第1四半期純利益が4,767百万円ありましたが、法人税等の支払額が4,012百万円あったことなどによるものです。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、獲得した資金は2,981百万円となりました。

これは、有形固定資産の取得330百万円などがありましたが、有形固定資産の売却1,160百万円や営業権譲渡による収入1,127百万円があったことなどによるものです。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は2,499百万円となりました。

これは、配当金の支払い1,569百万円があったことなどによるものです。

3 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（注）金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	135,000	8,000	4,500	
通期	268,000	16,000	8,600	207 19

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期につきましては、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成18年5月15日に公表いたしました中間期および通期の業績予想は修正しておりません。

上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。